



熊本市社会福祉協議会・西区事務所便り
令和3年11月発行

熊本市社会福祉協議会が展開しているジュニアヘルパー事業は、中学生（ジュニアヘルパー）が近隣の高齢者宅を訪問し、お話し相手等の見守りを行う活動です。しかし、今年度はコロナ禍の現状では同じ内容での実施は難しいため、新たな取り組みとしてジュニアヘルパー（令和3年度前半は花陵中）の皆さんが作成した手描きのカードを地域の方々へお届けすることになりました。

民生委員の皆さまのご協力をいただいて配付したところ、色鮮やかで思いがいっぱいに綴られていたカードを受け取られて、「淋しい毎日だったが元気になった」「心が温かくなった」など喜ばれた方が多く、私どもも安心したところです。沢山のお礼状もいただくなど、交流の輪が広がるこの事業、これからもご協力を宜しくお願いいたします。

春日校区



竹之内さんご夫婦

孫からもらったようでうれしい。この時代に年寄りを大事にしてくれてありがたい。心が温かくなったので続けて行って欲しいですね（同行：三村民生委員さん 右端）



古町校区

牧野さんご夫婦

うれしかった。年取ると人との関わりが少なくなる中で、ありがたい。子ども達も大変な事が多いけど、感染することなく過ごして欲しい（同行：高田民生委員さん 右端）



（前列左から）小林はま子さん、村上子明さん

素晴らしいことをやっている、と思います。出来ることを続けて欲しい。順風満帆にいかない大変な時代だけど中学生を楽しんでほしい（同行：喜野民生委員さん、高瀬民生委員さん 後列）

栗山真理子さん

キレイな絵で、心づかいの言葉もありがたい。新型コロナの時期に目新しいカードをいただき嬉しく感じています（同行：福原民生委員さん 写真左）

白坪校区



鹿本典子さん

人と接する機会も少ない中で、皆さんと普段かかわりが無い高齢者のことを気にかけていただけたのはとても嬉しかった。多くの人に見てもらいたい。また、このジュニアヘルパー活動の輪がもっと広がって欲しい、と感じています（同行：村山民生委員さん 写真左）